

！！ 注意 ！！

- この案内書は 『平成 23 (2011) 年度名古屋大学大学院工学研究科博士課程 (前期課程・後期課程) 学生募集要項』 の説明を補い, 社会基盤工学専攻の受験に際して必要な事項を記すものです. したがって, 上記の学生募集要項を必ず入手し, 必要な手続きを行ってください.
- 土木工学系の学科出身者は, 一般選抜試験だけでなく筆記試験免除選抜による受験も可能です.
- 土木工学系以外の学科出身者にも広く門戸を開いており, 専門部門の試験においてそれぞれの専門性を考慮した問題を用意しています. 詳しくは本案内書「**3. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲**」の項を参照ください.
- 平成 24 年度の博士課程 (前期課程) 入学試験 (平成 23 年 8 月実施予定) より, 社会基盤工学専攻では外国語の筆記試験は行わず, TOEFL または TOEIC のスコアシート提出によってのみ外国語の成績を判定します.

平成23（2011）年度
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻

博士課程（前期課程・後期課程）

入 学 試 験 案 内

この案内書は平成23（2011）年度名古屋大学大学院工学研究科博士課程（前期課程・後期課程）学生募集要項の説明を補い、社会基盤工学専攻の受験に際して必要な事項を記すものである。したがって、上記の学生募集要項を必ず入手した上で、手続きを行う必要があるので、留意されたい。

本専攻は土木工学系の学科出身者に限らず、社会基盤工学に興味を持つ工学部の他系学科、理学部、農学部、経済学部、文学部等の卒業生にも広く門戸を開いており、専門部門の試験においてそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。詳しくは「3. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲 専門部門」の項を参照されたい。なお、不明な点は下記へ問い合わせさせていただきたい。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町C1-3(651)
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻事務室
(電話 052-789-3735)

◎博士課程(前期課程)

1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・願書受付期間 平成22年6月16日（水）～ 同年6月18日（金）
- ・入試期日及び科目

本専攻は筆記試験免除の制度があり、願書においてこれを希望した者は、次表の日程で審査が行われる。書類選考または面接試験において選抜から漏れた者は一般選抜試験（筆記試験）を受験することができる。なお、この制度での選抜は土木工学系の学科出身者に限る。
<筆記試験免除者選抜>

月 日	時 間	事 柄	試 験 場
7月12日（月） 7月24日（土）	9:30～17:00	書類選考結果の本人宛発送 面接試験	工学部9号館 911 講義室 （集合場所）
7月30日（金） 8月26日（木）		面接試験結果の本人宛発送 専攻教員全員による口頭試問 （一般選抜試験に同じ）	

筆記試験免除を希望していない者および、筆記試験免除者選抜において選考に漏れた者は次の日程での一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）を受験する。
<一般選抜試験>

月 日	時 間	科 目 名	試 験 場
8月24日（火）	10:00～12:00	1. 外国語(英語)	工学部7号館 701 講義室
	13:30～16:30	2. 基礎部門	
8月25日（水）	9:00～13:00	3. 専門部門	
8月26日（木）	筆記試験当日通知する。	4. 専攻教員全員による口頭試問	工学部9号館 911 講義室 （集合場所）

- ・合格発表日 平成22年9月10日（金）（筆記試験免除者も同時）

2. 筆記試験免除者選抜面接試験

本専攻では、学業成績が特に優秀で、かつ本専攻での勉学に高い意欲を持つ者に対して筆記試験免除者選抜を実施する。

筆記試験免除者選抜の希望者のうち、書類選考に合格した者は面接試験を受ける。この面接試験においては、その参考とする為の資料を、控え室にて作成させることがある。

3. 一般選抜試験の筆記試験科目の選択方法ならびに出題範囲

出題範囲については7ページの「名古屋大学大学院工学研究科（社会基盤工学専攻）平成23年度博士課程（前期課程）入学試験学力検查出題範囲」を参照のこと。

・外国語

英語のみ。志願者全員必須とする。ただし、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) またはTOEIC (Test of English for International Communication) スコアの提出により、筆記試験に代えることができる。これに関して、以下の方法で実施する。

- (a) スコアシートの提出は任意とし、提出者には換算点を与える。
- (b) スコアシート提出者は筆記試験（英語）を受験してもしなくてもよい。受験しない場合、筆記試験（英語）の時間に試験会場に来る必要はない。受験した場合、筆記試験とスコア換算点のいずれか高い方の得点を採用する。
- (c) スコア換算を認めるのはTOEFL, TOEIC のみとし、下記の注意事項にしたがっていればスコアの有効期限は問わない(受験の時期は問わない)。TOEFL については、CBT (Computer-Based Test, 日本での試験は2006年9月末で終了)、PBT (Paper-Based Test)、iBT (Internet-Based Test) のいずれについても受け付ける。団体特別受験制度 (IP: Institutional Program) のスコアは受け付けない。

スコアシートは以下の点に注意し、提出する事。なお、スコアシートの提出方法について、「平成23年度名古屋大学大学院工学研究科博士課程（前期課程）学生募集要項」を必ず確認する事。

- (a) TOEFLについては、“Official Score Report”が平成22年8月3日（火）17時までに届くよう、余裕をもって送付依頼手続きを行うこと。送付依頼の際にINSTITUTION CODEは0312, DEPT. CODEは65を指定すること。また、送付依頼したスコアに対応するExaminee's Score Recordのコピーを、平成22年8月3日（火）17時までに提出すること。なお、“Official Score Report”不着の場合に備えて、試験期間中はExaminee's Score Recordの原本を必ず携帯すること。
- (b) TOEIC については、“Official Score Certificate” <公式認定証>の原本を、平成22年8月3日（火）17時までに提出すること。なお、提出したスコアシートの返却には応じられない。
- (c) 入試までの間に開催されるTOEFL/TOEICの試験は、その回数が限られている。これからTOEFL/TOEIC を受験する者は試験開催日程に注意すること。
- (d) TOEFL/TOEIC に関する詳細は下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.toeic.or.jp/toeic/index.html>

また、スコアの筆記試験への換算は以下の方法で行われる。

- (a) TOEFL (PBT) からの換算は、600 点以上を満点に相当する200 点、400 点以下を0 点として、以下の式を用いる。
$$\text{TOEFL (PBT) スコア} - 400 = \text{換算点}$$
- (b) TOEFL (CBT, iBT) からの換算は、TOEFL 公式HP に示されている換算表に基づいてTOEFL (PBT) に換算した後、(a)の方法を適用する。
- (c) TOEIC からの換算は、以下の式を使用してTOEFL (PBT) に換算した後、(a)の方法を適用する。
$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験のみに適用されるものとする。

なお、平成24年度名古屋大学工学研究科博士課程（前期課程）入学試験（平成23年8月実施予定）より、社会基盤工学専攻では外国語の筆記試験は行わず、TOEFLまたはTOEICのスコアシート提出によってのみ外国語の成績を判定する。

・基礎部門

応用数学3問および小論文2問を出題し、これらの問題から3問を選択解答する。

・専門部門

専門部門については、以下の「専門部門 A」（土木工学系）、「専門部門 B」（土木工学系以外）のいずれかを選択する。

専門部門 A（土木工学系）

「構造・材料工学」，「地盤工学」，「水理・水工学」，「計画学」，「環境工学」の5つの系より、それぞれ3～6問出題し、これらの問題から5問を選択解答する。ただし、1つの系より選択可能な問題は3問までとする。

出題範囲については7ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門 A の項を参照のこと。

専門部門 B（土木工学系以外）

本専攻では土木工学系以外の学科出身者にも広く門戸を開き、専門部門 B の試験において社会基盤工学や環境管理に資する土木工学系以外の分野でのそれぞれの専門性を考慮した問題を用意している。

専門部門 B では、(1)「社会基盤開発・環境管理」に関する問題（専門部門 B において共通の問題）と、(2)社会基盤工学の中で入学後に希望する専門分野から出題される問題の2つに対して解答する。(2)の出題にあたっては、受験者の出身分野に応じた問題が用意される。出題範囲については7ページの表「入学試験学力検查出題範囲」の専門部門 B の項を参照のこと。本専攻での各分野に関する詳細は、8ページの表「指導教員および教育研究内容一覧表」および社会基盤工学専攻ホームページ（<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>）を参照のこと。

専門部門選択に関する注意

- i) 志願者の出身学科が土木工学系の場合は必ず「専門部門 A」を選択する。
- ii) 志願者の出身学部、学科が土木工学系以外の場合は「専門部門 A」，「専門部門 B」のどちらを選択してもよい。
- iii) 「専門部門 A」を選択した場合、志願者の出身学科に拘らず「専門部門 A」で受験する。こちらから確認の通知はしない。
- iv) 「専門部門 B」を選択した場合、志願者の出身学部、学科、専門分野について書類審査を行う。その参考とするので、出身学科のシラバス（授業要目）のコピーを1部提出すること。審査の結果、志願者が土木工学系の学科出身者であると判断された場合には、「専門部門 A」で受験しなければならない。「専門部門 B」での受験が許可されたか否かについては、7月23日（金）までに志願者に通知するので、自分の宛名を書いた返信用はがき（切手貼付）を必ず同封すること。

専門部門選択調査用紙の提出

志願者は、別紙「社会基盤工学専攻（前期課程）入学試験専門部門選択調査用紙」に必要事項を記入して同封の「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係 宛」の封筒（切手は各自で貼付）に入れて返送すること（6月18日（金）までに必着）。なお、「専門部門 B」を選択した場合は、出身学科のシラバス（授業要目）のコピー1部および自分の宛名を書いた返信用はがき（切手貼付）を同封すること。

4. 募集人員

「平成23年度名古屋大学大学院工学研究科（前期課程）学生募集要項」に記載されているように、社会基盤工学専攻の博士課程前期課程の募集人員は34名である。

5. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具、鉛筆削り、消しゴムのみ使用してよい。電卓は大学側で準備するので持参しないこと。

6. 筆記試験時の遅刻者及び途中退室者の取り扱い

外国語及び基礎部門の試験は、試験開始後30分以上の遅刻は認められない。その他の試験は、試験開始後60分以上の遅刻は認められない。また、全ての試験において試験途中の退室は認められない。

7. 「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係 宛」の封筒で提出する書類

以下の書類を6月18日(金)までに必着で提出すること。

- ・社会基盤工学専攻（前期課程）入学試験専門部門選択調査用紙
- ・出身学科のシラバス（授業要目）のコピー及び自分の宛名を書いた返信用はがき（専門部門Bを選択した者のみ）

その他の出願書類（TOEFL/TOEIC のスコアシート（スコアの換算を希望する者のみ）を含む）は工学研究科博士課程（前期課程）学生募集要項の「4 出願書類等」, 「5 出願手続」に従って提出すること。

その他

この情報に変更、修正がある場合は次のホームページに掲載するので、随時確認のこと。
<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/index-j.html>（社会基盤工学専攻のホームページ）

追記

- ・提出書類に含まれる個人情報、入試に関する事以外には使用しません。
- ・前年度実施の試験問題の入手方法については、直接、社会基盤工学教室事務室に来室して問い合わせるか、または、封筒の表に「大学院入試についての問い合わせ」と朱書きのうえ、その旨を記した書信と共に返信用封筒（A4サイズが入る角2封筒に自分の住所、氏名を書き、390円切手を貼る）を同封して下記へ送付のこと。

〒464-8603 名古屋市千種区不老町C1-3(651)
名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻事務室

◎博士課程(後期課程)

後期課程には、一般選抜と社会人特別選抜がある。

1. 入学試験科目及び日程

入学試験の科目及び日程は次のとおりである。

- ・ 願書受付期間 平成22年7月13日(火) ～ 同年7月15日(木)
- ・ 入試期日及び科目

月 日	時 間	科 目 名	試 験 場
8月24日(火)	10:00～12:00	1. 外国語(英語)	工学部7号館701講義室 筆記試験当日通知する。
	13:30～17:30	2. 基礎部門	
8月25日(水)	9:00～13:00	3. 専門部門	
	15:00～16:30	4. 口述試験	
8月26日(木)	筆記試験当日通知する。	5. 社会基盤工学専攻教員全員による口頭試問	工学部9号館911講義室 (集合場所)

- ・ 合格発表日 平成22年9月10日(金)

2. 筆記試験科目ならびに口述試験

・ 外国語

英語のみ。志願者全員必須とする。ただし、TOEFL (Test of English as a Foreign Language) またはTOEIC (Test of English for International Communication) スコアの提出により、筆記試験に代えることができる。これに関して、以下の方法で実施する。

- スコアシートの提出は任意とし、提出者には換算点を与える。
- スコアシート提出者は筆記試験(英語)を受験してもしなくてもよい。受験しない場合、筆記試験(英語)の時間に試験会場に来る必要はない。受験した場合、筆記試験とスコア換算点のいずれか高い方の得点を採用する。
- スコア換算を認めるのはTOEFL, TOEICのみとし、下記の注意事項にしたがっていればスコアの有効期限は問わない(受験の時期は問わない)。TOEFLについては、CBT (Computer-Based Test, 日本での試験は2006年9月末で終了)、PBT (Paper-Based Test)、iBT (Internet-Based Test)のいずれについても受け付ける。団体特別受験制度(IP: Institutional Program)のスコアは受け付けない。

スコアシートは以下の点に注意し、提出する事。

- TOEFLについては、“Official Score Report”が願書受付期間終了までに届くよう、余裕をもって送付依頼手続きを行うこと。送付依頼の際にINSTITUTION CODEは0312, DEPT. CODEは65を指定すること。また、送付依頼したスコアに対応するExaminee's Score Recordのコピーを、出願時に願書とともに提出すること。なお、“Official Score Report”不着の場合に備えて、試験期間中はExaminee's Score Recordを必ず携帯すること。
- TOEICについては、“Official Score Certificate” <公式認定証>の原本を、出願時に願書とともに提出すること。なお、スコアシートの返却を希望する者は、その旨を記載した文書(書式自由)および自分の宛名を書いた返信用封筒(切手貼付)を同封すること。
- 入試までの間に開催されるTOEFL/TOEICの試験は、その回数が限られている。これからTOEFL/TOEICを受験する者は試験開催日程に注意すること。
- TOEFL/TOEICに関する詳細は下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/index.html>

また、スコアの筆記試験への換算は以下の方法で行われる。

- TOEFL (PBT)からの換算は、600点以上を満点に相当する200点、400点以下を0点として、

以下の式を用いる。

TOEFL(PBT)スコア－400＝換算点

(b) TOEFL(CBT), TOEFL(iBT)からの換算は, TOEFL 公式HP に示されている換算表に基づいて TOEFL(PBT)に換算した後, (a)の方法を適用する。

(c) TOEIC からの換算は, 以下の式を使用してTOEFL(PBT)に換算した後, (a)の方法を適用する。

TOEIC スコア×0.348+296＝TOEFL(PBT)スコア

(d) 以上の換算方法は, 今回の試験のみに適用されるものとする。

・基礎部門・専門部門 (筆記試験)

専攻分野の基礎となる科目。あらかじめ希望指導教員とよく連絡をとり, 相談の上, 基礎部門・専門部門それぞれ2科目を設定する。この手続きに従って受験科目が設定されないと, 受験に際し不利益を被る恐れがある。

・口述試験

筆記試験の内容およびそれに関わる学識について, 出題委員による口述試験を行う。

なお, 受験希望者は出願後, 早急に名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻主任あるいは希望指導教員に連絡をとり, 受験科目について指示を受けること。

3. 募集人員

「平成23年度名古屋大学大学院工学研究科博士課程(後期課程)学生募集要項」に記載されている通り, 一般選抜の博士課程後期課程の募集人員は10名であるが, 社会人特別選抜によって, これとは別に若干名を受け入れることができる。

4. 試験に際しての持参品

受験に際しては受験票を必ず持参する。筆記試験に際しては筆記用具, 鉛筆削り, 消しゴムのみ使用してよい。試験に電卓が必要な場合は, 大学側で準備するので持参しないこと。

5. 筆記試験時の遅刻者及び途中退室者の取り扱い

外国語及び基礎部門の試験は, 試験開始後30分以上の遅刻は認められない。その他の試験は, 試験開始後60分以上の遅刻は認められない。また, 全ての試験において試験途中の退室は認められない。

6. 「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係 宛」の封筒で提出する書類

以下の書類を7月15日(木)までに必着で提出すること。

- ・TOEIC のスコアシート返却依頼文書(書式自由) および返却用封筒(スコアの換算を希望する者で, かつ返却希望者のみ)

追記

- ・提出書類に含まれる個人情報, 入試に関すること以外には使用しません。

名古屋大学大学院工学研究科（社会基盤工学専攻）
平成23年度 博士課程（前期課程）入学試験学力検査出題範囲

科目名		主な出題範囲		時間・配点
外国語	英語	全員必須		120分 (200点)
基礎部門	小論文	応用数学3問と小論文2問の中から3問を選択解答する。	社会資本整備事業に関連する社会・経済的問題，地球および都市環境問題などに関する小論文で，主としてその論理性を問う。	180分 (1問100点， 合計300点)
	応用数学		微分・積分，ベクトル解析，行列と行列式，および確率・統計の基礎的事項ならびに工学への応用	
専門部門 (A・Bのいずれか)	専門部門A	構造・材料工学	「構造・材料工学」，「地盤工学」，「水理・水工学」，「計画学」，「環境工学」	240分 (1問100点， 合計500点)
		地盤工学	の5つの系より，それぞれ3～6問を出題し，これらの問題から5問を選択解答する。	
		水理・水工学	ただし，1つの系より選択可能な問題は3問までとする。	
		計画学		
		環境工学		
	専門部門B	社会基盤開発・環境管理	国土・都市空間・社会基盤の開発・利用および環境管理などに関する基本的事項について問う。(2問)	
		専門分野	各受験者の出身学部・学科における専門のバックグラウンドを活かしつつ，社会基盤工学専攻各分野(8ページ「指導教員および教育研究内容一覧表」参照)での展開可能性について問う。(3問)	

なお，これ以外に社会基盤工学専攻全教員による口頭試問がある。

指導教員および教育研究内容一覧表

専門分野	指導教員	教育・研究内容
構造 ・ 材料系	伊藤 義人 教授	地震力及び衝撃を受ける構造物の挙動とその設計法, 構造物のライフサイクルアナリシス, 環境システムなどの情報処理
	舘石 和雄 教授	鋼構造物の維持管理工学, 鋼構造部材の延命化技術, 鋼構造物の点検技術, 鋼・コンクリートの合成構造物の力学的挙動
	中村 光 教授	コンクリート構造学, RC構造物の非線形数値解析, RC構造物の耐震性能評価, コンクリートの耐久性力学
	国枝 稔 准教授	土木材料学, 補修工学, 維持管理工学, コンクリートの破壊の力学
	判治 剛 准教授	鋼構造学, 構造工学, 鋼構造物の破壊制御, 橋梁モニタリングシステム
水工系	辻本 哲郎 教授	移動床流れの水理, 河川の生態環境水理, 河相の変遷, 河川災害
	水谷 法美 教授	海岸構造物の耐波安定性, 海岸・海洋構造物による波変形と作用波力, 津波によるコンテナの挙動と衝突力, 漂砂と海浜地形変化
	川崎 浩司 准教授	固気液多相乱流数値モデルの研究開発, 海岸・海洋構造物周辺の波浪変形, 津波・高潮・越波に対する防災対策技術, 閉鎖性水域の流動・密度・水質構造と物質輸送
	戸田 祐嗣 准教授	河川環境水理, 生物一次生産と栄養塩輸送, 河川地形と生物の相互作用
	中村 友昭 特任講師**	流体・構造・地盤・地形変形の相互作用に伴う構造物および周辺地盤の安定性, 遡上津波による地形変化, 護岸背後の土砂吸い出し
地盤系	中野 正樹 教授	自然及び人工地盤材料の性能評価と品質保証, 「土砂循環型」地盤材料利用システムの構築, 土・地盤構造物の締め固め機構
	野田 利弘 教授	飽和土の動/静的水～土連成有限変形解析, 地盤改良・補強工等の工法原理の解明・開発, 人工・自然地盤の地震時・地震後応答解析, 自然堆積地盤の生成過程の再現
	山田 正太郎 准教授	ひずみの局所化を伴う地盤の進行性破壊, 砂質土の液化化および再液化現象, 破砕性地盤材料の力学挙動, 地盤と構造物の接触問題
計画系	中村 英樹 教授	交通工学, 交通計画, 道路幾何構造設計, 交通運用, 交通流の質の評価, インテリジェント交通システム(ITS), 車両挙動・交通現象のモデル化, 交通流シミュレーション
	山本 俊行 准教授	自動車保有・利用行動の分析, 交通行動分析, 環境的に持続可能な交通, 高度交通システム (ITS), 交通安全・事故解析
	三輪 富生 准教授*	高度道路交通システム (ITS: Intelligent Transport Systems) 技術の開発, 交通行動の分析, 交通需要予測, 交通均衡モデル・交通シミュレータの開発
環境系	片山 新太 教授*	土壌・地下水汚染の微生物浄化, 土壌・地下水汚染の浄化シミュレーションと評価, 化学物質の土壌生態系への影響評価, 有機質廃棄物のコンポスト化処理と地域ネットワーク
	林 希一郎 教授*	環境政策, 環境影響評価・生態系評価, 国際環境協力, エコトピア指標 (持続可能性指標) 開発, 生物多様性と環境経済・政策学, バイオ廃棄物の環境影響評価, 諸外国環境政策比較

(*)エコトピア科学研究所, (**)高等研究院

(別紙)

社会基盤工学専攻（前期課程）入学試験

専門部門選択調査用紙<必ず提出すること>

- 受験番号 _____ (記入不要)
- 出身大学・学部・学科名： _____ 大学 _____ 学部
_____ 学科
- 氏名： _____
- 現在の指導教員名： _____ (連絡先 Tel： _____)
- 卒業研究のテーマ： _____

◎専門部門において、以下のいずれの問題で受験するか（全員記入）。

・ 専門部門 A ・ 専門部門 B

(いずれかを○で囲む)

- ◎希望する指導教員（全員記入）： _____
- 希望する専門分野
(専門部門Bを選択された方のみ記入，専攻入試案内7ページ表参照)： _____
- ◎国際環境人材育成プログラム*への参加を (希望する ・ 希望しない) (全員記入)
(いずれかを○で囲む)

*国際環境人材育成プログラムの詳細について、別添資料およびパンフレットを参照の上記入すること。「希望する」と回答したものを対象に、プログラム参加に関する選考を行う。なお、本回答内容は、社会基盤工学専攻入学試験の結果に何ら影響を与えない。

- 連絡先住所：〒 _____

- 電話番号（もしあれば）： _____
- 携帯電話番号（もしあれば）： _____
- ファクシミリ番号（もしあれば）： _____
- E-mail アドレス（もしあれば）： _____

(注意)

- 1) 同封の「名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻事務室内 社会基盤工学専攻入試係宛」の封筒にて、6月18日（金）（必着）までに送付すること。
- 2) 専門部門 B 選択者は、出身学科のシラバス（授業要目）のコピー および 自分の宛名を書いた返信用はがき（切手貼付）も同封すること。
- 3) 連絡先住所、電話番号、ファクシミリ番号等の記入の際には、夏期休暇中でも確実にこちらからの通知等が受け取れる様に配慮すること。

平成 23 年度・工学研究科社会基盤工学専攻博士課程(前期課程)を受験するみなさんへ 「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻では、環境学研究科都市環境学専攻空間環境学コースと協力して、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施しています。本プログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものです。

下記の説明および資料を参照の上、参加を希望する場合には、必要な手続きをとってください。

対象学生

博士課程(前期課程)に入学する留学生および日本人学生(上記 2 専攻合計で各年度、留学生 10 名程度および日本人 5 名程度を選考)。

プログラムの概要

※詳細については、ホームページ(<http://www.envleaders.env.nagoya-u.ac.jp>)を参照のこと。

- 地球温暖化対策、水・廃棄物対策、生物多様性保全の 3 分野を柱に、問題事象の理解、対策技術の理解・修得、制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施します。プログラム学生は、3 分野のうち 1 つを選択します。講義等は英語で行います。
- 地域の企業、NGO、海外の大学、国際機関などの協力を得て、インターンシップ(グローバル研究インターンシップ)を実施します。旅費の一部を支援します。
- 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学びます。これにより、国際的コミュニケーション能力を向上させることができます。
- 一定数の優秀な留学生に対しては、入学金・授業料を免除します(2年間)。
- プログラム所定の学業を修めた学生には、修士学位に加えて、プログラム修了認定証を授与します。
- 博士課程後期課程への進学の間も開かれています。

参加希望から選考、参加までの流れ

- ① 「社会基盤工学専攻(前期課程)入学試験専門部門選択調査用紙」の参加希望欄に「希望する」と回答してください。(該当箇所に回答がない場合は、選考の対象にならないので注意してください)
- ② 入試合否発表後、参加希望者のうち合格者を対象に英語小論文を課します。また、必要に応じて面接を実施します。入試成績、英語能力、意欲などを総合的に評価して、プログラム学生を選考します。
- ③ プログラムから選考結果を通知します。
- ④ 入学時に、ガイダンスを実施します。
※選考案内を含むプログラムからの連絡は、基本的にメールで行います。参加希望の受験者は必ず、「調査用紙」に確実に受信できるメールアドレスを記載してください。特に入試合否発表前後は、定期的にメールを確認してください。

注意事項

- プログラム学生は、プログラム指定科目(指導教員によるセミナー科目 8 単位およびグローバル研究インターンシップ 2 単位を含む計 24 単位)を履修することが求められます(学位取得に必要な単位としてカウントできます)。
- プログラム学生は通常の学生と同様に、社会基盤工学専攻の教員の中から、自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望することができ、それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら、プログラム履修を進めます。プログラム参加については、事前に希望指導教員に相談することを強く勧めます。
- プログラムが柱とする 3 分野と自分の研究テーマが必ずしも一致してなくても、プログラムに参加できます。実際に、様々な土木工学分野の学生が参加しています。
- プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されています。したがって、プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能です。

問い合わせ先: 名古屋大学国際環境人材育成プログラム
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-1(510) 環境総合館 411 号室
E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp